楽しく住める村に

15億6千100万円（一般会計予算）

昭和五十五年第一回定例村議会は三月十日から二十一日までの会期十二日間で招集され、昭和五十五年度一般会計予算及び特別会計予算など四十六案件を上程、審議されました。その結果、全案件が原案通り可決成立しました。議会初日、村長は昭和五十五年度の施政について説明を行い——経常経費は年々増大し、財源の伸びは意外と乏しく財政は益々硬直化し、本年度も起債依存型の予算を脱しきれず、内容的には極めて厳しい予算編成となった。このように苦しい状況であるけれども、それなりの創意と工夫をしながら、活力と魅力ある村づくりに全力を傾注する——と述べ具体的には、社会体育施設の充実、水田利用再編対策の対応、農村総合整備モデル事業の実施計画策定、道路の改良整備促進、総合開発計画の見直し、の五項目の重点施策を掲げ、その所信を発表しました。以下その内容について要約し紹介します。

昭和55年度 施政の方針

今日の世界情勢は極めて複雑多岐にわたり、その緊張感は異常な高まりをみせており、エネルギー問題、通商上の摩擦、通貨の問題等々、世界の破局も招来しかねない不安材料が派生しております。

一方、国内にあっては、経済の高度成長期の後遺症に苦慮しつつ、あらゆる施策の見通しや、活力に満ちた政治の展開と行財政の運営に努力してきております。

昭和五十五年度の国家予算の編成をみても——経済運営を基本的基盤を強化し、財政の見通しとにしながら、経済発展のための対応力の回復を図る——とし、経費の節減合理化とあいまって、行政改革の推進など、一般行政経費抑制中心の予算編成となっています。

したがって、本村としても、これら国の基本的取り組みや、地方財政への影響を洞察しながら、極力消費的経費を節減し、投資面に重点をおいた予算編成となり、内容は大変きびしいものがあります。

これも財政上の節度という観点から、みなさんのご理解をお願いいたします。

このような現状をふまえ、分析しながら、岩室村の将来を展望し、昭和五十五年度の重点施策に次の五点を掲げ、強力に推進を図っていくつもりです。

主な施策

社会体育施設の充実

○村民体育館の建設

公民館を中枢にして、村民の総合的な社会教育、社会体育活動の場として完成させるため、既設の野球場、テニスコートに加えて、本年度は村民体育館を建設し、その実現を図ります。

青少年の健全育成の面からも、村民スポーツ振興のうえからも極めて有益な施設であると同時に、村の抱えている将来の公共事業計画を考え合せた時、少しでも早い機会に実現することが最善であるという判断に基づき、国県への陳情を行い年度内完工をめざします。構造は、鉄筋鉄骨平屋一部二階建とし、面積は、二、三〇〇～二、五〇〇㎡を考え、所要経費として概算三億五千万円を計上しました。

水田利用再編対策への対応

これまで水田利用再編対策を一時的な避難対策のような安易な気持ちで受けとめるむきもあったようですが、国の農業施策は、転作の定着、複合農業の確立に向けられてきており、今年の配分割当ては、昨年度の六五%増、つまり、一四四・九ヘクタールの減反を余儀なくされました。したがって、本村としては、昨年同様に五千円の交付金を予定しています。しかし、このような奨励措置も大切ですが、基本的には転作を定着させるための対策として、基盤整備と転作の集団化にあると考えています。

そのため、小規模排水事業が七割補助によって実施されることもあって、五十四年度には二地区が実施しており、本年度も希望地区については、その奨励と推進のため村としても助成金を考慮しております。

また、農政振興協議会が先般発足しましたので、この機能を充分活しながら、行政の立場として積極的な指導と援助を行ってまいります。

○転作実施協力者への助成

○小規模排水事業の助成

農村総合整備モデル事業の実施計画策定

昨年度来、続けてきた、岩室村の将来構想の集約を基に、この事業として実施可能なものを抜き出し、七ケ年にわたる事業費配分を行い、各地域の皆さんとも充分協議しながら、最善の実施計画を策定したいと考えております。

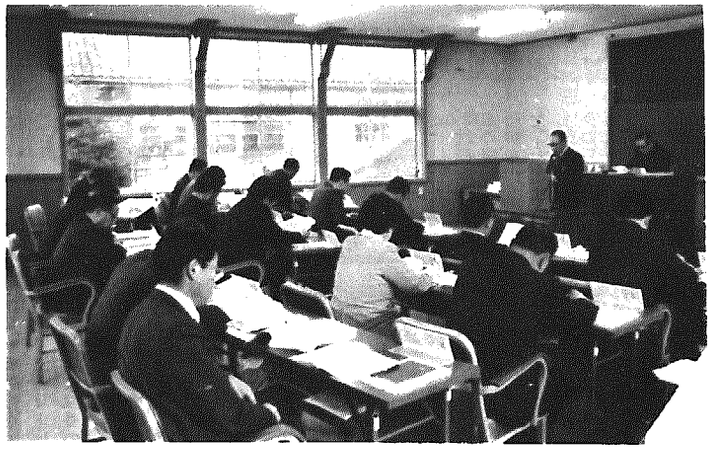
道路の改良整備促進

村道の改良については、五路線、四七七メートル、三五、七三〇千円を計上、舗装は、十九路線、三五、二五八千円を、維持工事は四ケ所、五、〇〇〇千円を計上し工事を施工します。

日常生活の重要問題だけに最も関心の多いことでありますので、今後の財源を見極めながら可能な限り道路の整備を図ります。

総合開発計画の見直し策定

岩室村の総合開発計画は、昭和四十九年に策定されたものであり、「あすの岩室村を考える会」からの答申についても三ケ年間を想定したものであって、その期間も終るわけであります。したがって、電源開発、高速交通態形に伴う地域開発などをふまえ、岩室村の将来展望を見直し、よりよい発展と住民福祉招来のため、長期構想を策定し、村のあるべき姿を明示してまいります。



昭和55年度 予算決る

特別会計予算

国民健康保険特別会計	330,433千円
水道事業会計	96,080千円
農業共済事業会計	102,289千円
温泉集中加熱事業	63,100千円

国民健康保険特別会計

本村の国保事業は、医療給付、税負担とも依然として県内最高水準のままであり、きびしい財政事情のもとでほぼ横ばいの状態を続けています。被保険者の減少傾向にもかかわらず予算規模は前年と同程度の三〇三、四三三千円の予算案を作定しました。

人間ドック助成については、本予算に計上してありませんが現在その範囲、方法等検討を続けており、成案を得た時点で対応する考えです。

農業共済会計

本年度から病害虫による事故を共済制度から除外し、新たに大型ハウスを対象にした共済制度を採用、また、航空防除事業をこの共済会計で実施することにしました。

水道事業会計

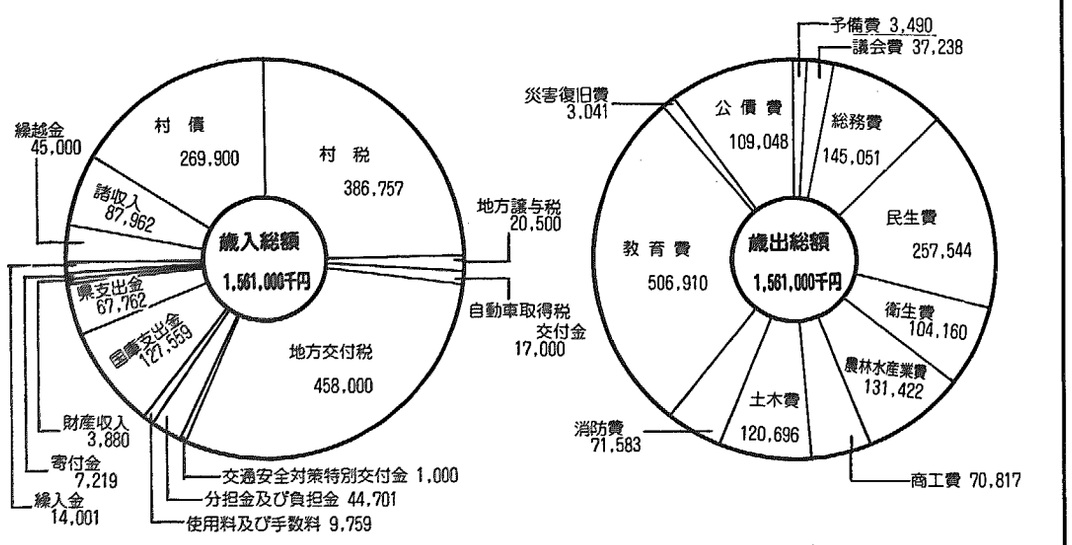
本年度は間瀬地区の水不安解消と安定供給を図るため、既設の間瀬導水管の最大量を基準として、石瀬増圧ポンプ場の改良工事費、一億一千万円を計上いたしました。

温泉集中加熱事業特別会計

温泉事業運営費の八二%が燃料費であり、昏迷する油事情を避けて通ることは不可能です。

そこで本年度は一、五〇〇万円を一般会計より財源手当をする一方、温泉使用料を五五%と大巾値上げを実施し、健全な企業運営を図るつもりです。

——◇——◇——◇——

以上のように述べ——活力と魅力ある村づくりに向って、村民とともに手をたずさえて着実な前進を期したい——と結びました。

昭和55年度一般会計予算の状況